

平成 22 年 1 月 28 日

各 位

会 社 名 株式会社 D T S
代表者名 代表取締役社長 赤羽根 靖隆
(コード番号 9682 東証第 1 部)
問合せ先 常務取締役 栗原 広史
(電話番号 03 - 3437 - 7522)

中期総合計画の策定について (2010 年 4 月 1 日 ～ 2013 年 3 月 31 日)

株式会社 D T S は、情報サービス産業を取り巻く事業環境の変化を踏まえ、当社グループの持続的な成長に向け、この度、2013 年 3 月期を最終年度とする中期総合計画を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 中期総合計画策定の狙い

情報サービス産業において、受託型のシステム開発・運用などの市場拡大期における従来型の事業形態は変革期を迎えており、今後はクラウドコンピューティング・仮想化などの新たな技術を活用したサービス提供型の事業形態が成長すると見込まれております。

D T S グループはこのような事業環境の変化を踏まえ、新たに 3 カ年中期総合計画を策定いたしました。

本計画では、最適な事業ポートフォリオの構築に向け、企画型の営業強化やマーケットイン型のソリューション提供などの施策に取り組みます。当社グループが付加価値の高いサービスを効率的に提供できる『バリュー・ソリューション・プロバイダー』となることにより、お客様と相互にメリットを享受できる関係を構築し、自律して成長する会社を目指してまいります。

2. 中期総合計画の概要

- 【計画期間】 2010年4月から2013年3月までの3カ年
- 【中期経営ビジョン】 『バリュー・ソリューション・プロバイダー』
- 【中期経営方針】 (1) 事業ポートフォリオの最適化
 (2) S I力の強化
 (3) アライアンスの積極化
 (4) グループ総合力の強化
 (5) 経営インフラの強化

『バリュー・ソリューション・プロバイダー』として、既存事業の変革や新規事業の創出により、事業ポートフォリオの最適化を図ります。第一に、根幹のS I事業においては、コンサルティングからアウトソーシングまでの一貫サービスのさらなる拡大、プロジェクトマネジメントの一層の強化、オフショア開発の増強などにより、サービスレベル向上および収益性確保の両立を図ります。第二として、製販一体型組織への改組による企画・営業力の強化や、他社との戦略的な連携強化の推進、グループ総合力のさらなる強化などにより新規事業を創出します。なお、人材マネジメントの徹底やコーポレートガバナンス・CSRの向上など、当社グループを支える経営インフラの強化にも継続的に取り組んでまいります。

【業績目標】

現在のグループ体制で、最終年度の連結売上高700億円規模を目標とし、将来的には資本・業務提携も含め、連結売上高1000億円を目指してまいります。

◇連結

	年度	2009 (*)	2010	2011	2012	年平均成長率
売上高	(億円)	518.0	605.0	640.0	680.0	+ 9.5%
営業利益	(億円)	15.0	33.0	42.0	51.0	+50.4%
営業利益率		2.9%	5.5%	6.6%	7.5%	

◇単独

	年度	2009 (*)	2010	2011	2012	年平均成長率
売上高	(億円)	340.0	360.0	385.0	410.0	+ 6.4%
営業利益	(億円)	12.5	23.0	29.0	35.0	+40.9%
営業利益率		3.7%	6.4%	7.5%	8.5%	

(*) 平成21年10月21日付、「平成22年3月期業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表した業績予想数値です。

以上

本資料に記載されている業績予想ならび将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確定要因などの様々な要素により、これらの業績予想とは大きく異なる結果となり得る可能性があることをご承知おきください。